

プレカットで過去最高実績

熊谷木材工業

熊谷木材工業（埼玉県熊谷市、飯塚秀司社長）のクマモクプレカットが、今年1～3月の実績で売り上げ、加工坪数ともに過去最高を記録している。昨年夏までに加工機械を一新し、生産性が高まったことが大きな要因。4月以降の受注も好調で、引き続き高水準の稼働を維持できる見通しだ。

設備更新後の生産力をフルに発揮

年明け以降、月間約2000坪を加工しており、1～3月のプレカットの通算売り上げは1億円超となっている。物件内訳は、分譲住宅を主体に、高齢者施設などの非住宅物件も加工している。

昨夏に宮川工機の特

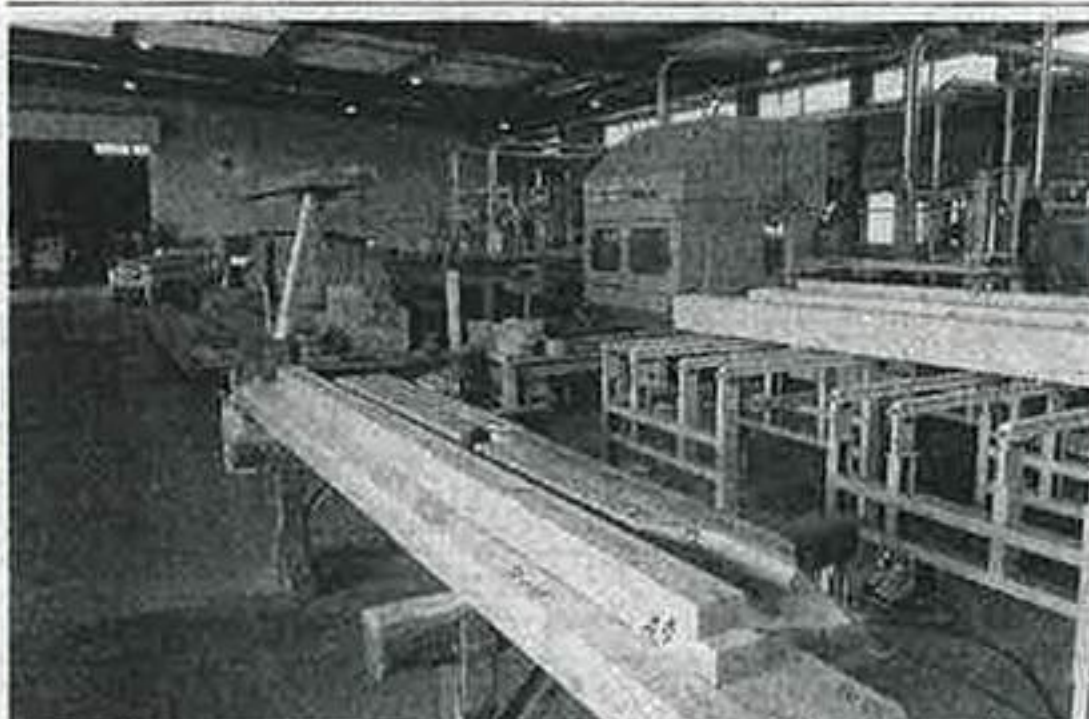
殊加工機MPS-55を導入するなど段階的に設備更新を図ってきた工場の加工能力が発揮され、加工数量の増加、加工物件の多様化につながった。

飯塚社長は「更新完了から半年をかけて生産力を見極めてきた」と設備更新からこれまでの経緯を語る。

現在のところ、CADの対応力向上が課題だが「CAD能力を高められれば、加工坪数を月間500～1000坪は増やせるだろ

ろ」（飯塚社長）と見込んでいる。CAD能力の改善については今後、ベトナムのCADセンターでの初期入力に取り組み方針で、社内での入力負担を減らし、効率化を進めていく。実績は伸びているが、機械の加工力の充実に、1シフト体制で無理のない労働環境となっている。一方で作業員全員が無線機を使い、情報共有や作業効率化に自主的に取り組み、生産力向上

に貢献している。4月以降も受注量は安定。非住宅物件も、積極的に獲得を目指す。資材については構造材、合板ともに一定の在庫量は確保している。



特殊加工機が活躍

特殊加工機が活躍している。一方で作業員全員が無線機を使い、情報共有や作業効率化に自主的に取り組み、生産力向上